

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 動物応用科学科

職階 講師

氏名 池田 裕美

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

動物応用科学科の動物行動管理学研究室に所属しており、2023年度後期からの着任であるため本年度は動物の福祉に関する科目を主に担当している。動物行動学および動物栄養学について組み合わせた動物行動栄養学を専門としているため、これらの分野を交えながら、動物が心も身体も健康に過ごしていくために何が必要であるのか考えながら教育することが責任であると考えている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
動物応用科学概論	動物応用科学科	必修	1	140
動物応用科学実習	動物応用科学科	必修	1	140
基礎ゼミ	動物応用科学科	必修	1	140
動物福祉論	動物応用科学科	必修	2	164
動物栄養学	動物応用科学科	必修	3	135
動物管理学	動物応用科学科	選択	3	132
動物行動管理学実習	動物応用科学科	選択	3	44
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	7
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	1
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

卒業後に進む分野として多様な選択肢がある中で、“自ら考え、解決策を導き出すことでさらに良い状態にしていく”ということがどの道に進んでも大事なことはないかと考えている。また、一つの考え方に固執することなく、柔軟な発想力を持つ人材を育成したいと考えている。物事を考える際に一方向のみからの考え方ではなく、様々な側面から考えた上でどうなのか、というところまで意識してもらいたい。これにより、今まで当たり前に使われてきたことに捉われず、新しい価値観を作り上げていく人材を育成したい。新しい価値観が生まれることで、ヒトと動物の双方にとって生きやすい社会を作り上げてほしい。研究にも関わってもらうことで、限られた命の中でいかに心身ともに健康に過ごすことができるのかと、考えることのできる学生さんが一人でも多く増えたらと願っている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

教育や研究において重要視していることは、“実際に自分の目で見て触れて確かめた上で、自分の力で考える”ということを身に付けてもらうことである。ただ答えを伝えるのではなく、考えるにあたり重要なポイントを提示し、そこからどのようにそれぞれをリンクさせていけるのか自らの力で考察を導いていくように指導している。自ら考え、問題の解決策を導き出しつつ新しい発見を続けられるような人材の育成を目指し指導を続けていきたいと考えている。そのために、「まずはあなたがどう考えるか？」と問いかけることを意識している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義の最終コマにおいて、これまでの講義を踏まえた上で発展課題を出した。この際、まずは自身の考えを整理してもらい、その後周囲の複数人でディスカッションする機会を設けた。これにより、自分自身のみの考えだけではなく、周囲の意見を聞きまとめるという力を身につけてもらうことを意識した。

(2) ICTの教育活用

有

ICT ツールとして昨年度に引き続き「imakiku/sugukiku」を導入し、講義の際に毎回活用している。リアルタイムアンケートツールであり、投票形式、投票＋記述形式、記述形式と選択可能であるため、質問内容に応じて適宜出題方式を変更している。スマートフォン等を用いて QR コードを読み込んでもらうことで、各自入力可能である。講義中は匿名の状態で全員が様々な課題に対する意見や考え、質問などの発言を共有することができる。また、こちら側の集計では誰がどのような発言をしたのか、どの選択肢を選んだのかが記録されるため、誰が講義へ意欲的に参加しているか把握しやすいというメリットがある。学生さんからも、自由に発言できることや周囲の意見を見ることができるので楽しいとの評価をいただいた。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

可能な限りスライドは文字を少なく、一目で見てわかりやすいものを提示できるように工夫している。写真や動画を多用することで、文章では伝わらない部分が理解しやすくなるよう補っている。また、最近のニュース記事などを引用し具体例を挙げることでより想像しやすく、興味を惹いてもらえるような内容作りを心がけている。

（２）学生の理解度の把握

A

理解度については、各回の最後に小テストを実施することや、振り返りテスト、最終レポートなどで講義全体の内容を踏まえた課題を設定することで把握することに努めた。

（３）学生の自学自習を促す工夫

B

自学自習については予習用に穴あき講義資料を、復習用に講義動画をAzamoodleに掲載している。しかし、予習用に余裕を持って掲載できなかったことや、録画の調子が良くないこともあり動画が掲載できないこともあったため改善の必要がある。

（４）学生とのコミュニケーション

A

学生さんからの質問については、アンケートツールの最後に「質問や意見、その他何かあれば自由に記入してください」という項目を設定しており、講義毎に質問を受け付けている。また、質問に対する回答は次回の講義の際に質問への回答コーナーを設けており、内容を全員と共有している。さらに、「その他何かあれば自由に」と記載することで、より気軽に記入できるイメージとした。これにより、質問以外にもどう思ったかなどの感想を記載してもらえることが増え、学生さんの考えがより伝わるようになった。別途、メールや対面での質問も受けておりその都度対応している。

（５）双方向授業への工夫

A

上述の ICT ツールを用いて意見を聞きながら講義を進めているため、一方的な授業にならないよう心がけている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

スライドの見やすさや、声の聞きやすさ、進める速度について良い評価を得られたため引き続き維持できるようにした。また、imakiku/sugukikuについては継続してほしいなどの声も多数あり好評であったことから、今年度も活用した。

(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

今年度も良い評価を得ることができたため、劣ることなく実施できていたことを実感した。また、範囲が広く難しい内容であったがわかりやすかったなどの声もいただいたため、わかりやすい説明を意識し理解度に合わせて進行できたのではないかと思う。一方で、小テストの模範解答があれば良かったなどの声もあったことから、今後の課題とする。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

次年度も引き続きスライドの見やすさや説明の仕方について意識していく。また、ポイントに沿った模範解答も示すことでより理解力を向上させるようにしたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

基礎的な内容を学んだ上で、小テストや中間テストなどを行いどの程度把握できているか実感してもらう。毎回の講義後に行った小テストは、次回の冒頭に解説する時間を設けている。最後には、これまで学んだ内容をもとに応用力を試すような課題を出すようにしている。定期試験においても記述問題を設けることにより応用力を試している。また、想像力や調べる力が必要なもの、身近なニュースから考えさせられるような課題を扱うことで発想力を鍛えてもらい、答えのないものを考えてもらう。その考え方は身近なところに繋がり役立っていくということも意識してもらう。

講義によっては動物園の職員の方を外部講師として招き、現場での様々な仕事についてご紹介いただき、質疑応答の機会を設けた。この回については大変高評価であり、動物園で働こうと考えている方やその他の方にとっても、今後の進路の参考になったことや、貴重なお話を聞くことができとても勉強になったことなどの感想が寄せられた。このような機会も今後も続けていきたい。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

- ・受講者が積極的に参加できるようにチャット機能を使った授業だったためとても理解が深まった。
 - ・質問にたくさん答えてもらえて良かった。
 - ・小テストの復習が毎回できたので理解しやすかった。
 - ・動物栄養学は学ぶ範囲が広がったが、原理を知ることによって理解しやすかった。
 - ・sugukikuでは聞かれる質問や問題に回答したり、他の人の回答を見ることができより頭が働いた、楽しいと思うことが多かった。
 - ・楽しみながら講義をされていたので、淡々と進められるよりも印象に残った。
 - ・写真や動画が多かったので分かりやすく癒された。
- などのコメントをいただくことができた。

一方で課題としては、

- ・模範解答の掲載や小テストの評価の反映をしてほしい
 - ・講義資料の掲載をもう少し早くしてほしい
- などのコメントもあったため、今後の改善点とする。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

FD研修が開催される際には参加している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

短期的な目標としては、学生さんの理解度や講義への反応を引き続き把握していくところから始めたい。長期的な目標としては、卒業研究を経て卒業する学生さんや院への進学を考える学生さんを担当していくことになるため、講義のみではなく研究活動を通しての指導についてより良い方法がないか模索していきたい。そのため、研究を行う上で重要な考え方や、学生さん自身の発想力を大切にしつつ教育や研究活動を推進する。どのような考えに至っているのか、ディスカッションにより深掘りをし確認していきたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- ・ 配布資料
- ・ imakiku/sugukikuの回答結果
- ・ レポート課題
- ・ 授業評価データ